

## 令和3年の会陽執行にあたって

西大寺会陽奉賛会  
会長 大森 實

新型コロナウイルスは、爆発的に世界に蔓延して終息の目途も立たず、あらゆる行事が中止または縮小を余儀なくされました。

こうした中、微力ながら西大寺会陽が如何にあるべきかを会陽 1000 年の先人に真摯に問い、改めてその足跡に学びました。

平安時代(794～1185 年)には度重なる疫病で、京都では人口の三分の一が亡くなり、室町時代(1333～1573 年)には西大寺本堂が焼失した際には、有縁の寺院の本堂を移築して会陽が執行されました。こうして会陽 500 年の歴史は一度も絶えることなく連綿と続いています。

そもそも会陽の語源は一陽来復、即ち、厳しい寒さに耐えて春の陽気を迎える。悪いことが続いた後に運気が開ける事にあります。

来る令和3年の会陽は如何にあるべきかを、ご住職、会陽奉賛会をはじめとする関係者にお諮りしたところ“今こそ会陽の祈り”が大事であるという結論に至りました。この祈りこそが天下泰平と五穀豊穰にあり、疫病平癒(新型コロナウイルスの終息)であります。

とはいえ、感染予防対策を講じるのは責務であり、ガイドラインの意図に沿いつつも、会陽の神髓を見失わない方法を襟を正して模索しました。

各位におかれましてはご高見もお有りの事とは存じますが、ご理解とご協力の程お願い致します。

合 掌

令和3年の会陽執行方法、注意、お願いなど

- ・ 関係者のみで会陽を執り行う。
- ・ 関係者以外の境内への立ち入りは全面禁止とする。  
入場規制時間 20:30～23:00 (無観客)
- ・ 当日の関連行事(少年はだか、女性はだか、奉納演舞、会陽冬花火、露店の出店)は全て中止とする。